

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立南輝小学校 \_\_\_\_\_

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( \_\_\_\_\_ )

住所 〒702-8023  
 岡山市南区南輝3丁目6番9号 \_\_\_\_\_

E-mail : nankis@city-okayama.ed.jp \_\_\_\_\_

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 281名 女子 265名 合計 546名  
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( \_\_\_\_\_ )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 1 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

#### 【1年生】

日 時：平成26年10月15日 10:00～11:35  
場 所：南輝小学校（体育館，運動場など）  
参加対象者：児童（1年生），保護者，地域の方  
人 数：児童97名，保護者・地域の方45名  
内 容：保護者や地域の方から，けん玉，めんこやコマなどの昔遊びを教わったり，その遊びを一緒に楽しんだりすることで交流を深める。



#### 【3年生】

日 時：平成26年9月4日 10:50～11:35  
場 所：南輝小学校周辺（草原，川，用水など）  
参加対象者：児童（3年生）  
人 数：児童25名  
内 容：1学期に一人一人が環境との関わりに着目して学校の周辺の様子を調べ，友達や保護者に発信した生き物の夏季休業後の様子について，再度経過を観察する。



#### 【6年生】

日 時：平成27年2月17日 13:55～14:40  
場 所：南輝小学校（6年生各教室）  
参加対象者：児童（6年生），保護者  
人 数：児童102名，保護者・地域の方90名  
内 容：地球環境問題について調べて，それらの問題を改善するために「自分たちができること」を考え，分かりやすくまとめて同級生や保護者に発信する。



### 2 取組の成果（参加者の変化、感想等を含めESDの視点をもって）

#### 【1年生】

地域のお年寄りや地域ボランティアの方々と一緒に，七夕飾りを作ったり，昔の遊びを一緒に行ったりしながら，交流を重ねてきた。交流後，活動を振り返り，お世話になった方々にお礼の手紙を贈ることで，自分の気持ちを伝えたり，自分の成長を感じたりする機会を設けた。この活動を通して，児童は，地域の方に感謝の気持ちをもつこと，感謝の気持ちを表すこと，自分が地域のいろいろな人とつながっていると実感することができると考えた。児童は，毎回，地域の方々との交流をとて楽しみにしており，地域の方々からだけでなく，児童から地域の方々に話しかけたり，質問したりするなど，積極的な関わりも数多く見られた。活動後，児童は以下のような手紙や日記を書いている。



(七夕飾りを作る会(7月)後のお礼の手紙)

「いのうえさんのおばあちゃん、ほしがたをおしえてくれてありがとう。おねがい、かなうかな。」「おじいちゃん、ちょうちんのつくりかたをおしえてくれてありがとう。いっしょにたなばたかざりをつくれてうれしかったよ。」

(学習発表会で、練習を重ねた昔遊びを披露できた児童の日記)

「きょう、がくしゅうはっぴょうかいのむかしあそびで、おてだまをしました。れんしゅうのときは、いっぱいおちたけど、ほんばんでは、いっかいもおとせませんでした。うれしかったです。きもちいいはくしゅうをもらって、またうれしかったです。」

子どもたちは活動を通して、地域や社会にはどんな人がいるのか知り、一緒に活動することで心を交流させ、自分の成長を感じたり、地域の方々に感謝する気持ちを育てたりしてきた。このような体験が、地域や地域の方々、自分を大切にすることを育て、以後の活動へと引き継がれて、自分たちで交流を進めていく力になると思われる。

### 【3年生】

校内にいる生き物を観察することで、身のまわりにいる生き物に関心を持ち始めた児童が、清掃前のプールに入りヤゴの救出を行った。(5月14日)そして、救出したヤゴを自宅や学校で羽化するまで観察・飼育する活動に取り組むことで、身近にいる小さな生き物が生きていくための持続可能な環境について考えたり、地域の環境問題について自分で考えたりする機会になると考えた。(ヤゴ救出作戦)ヤゴがさなぎになり、羽化する様子を間近に観察することで、命の尊さが実感できたようだ。



その後、一人一人が身近にいる小動物や昆虫、植物などの生き物の一つを選び、図鑑やインターネットを活用して情報を収集し、環境とのかかわりを友達や保護者に発信した。友達の発表を聞くことで自分が調べた生き物だけでなく、他の生き物にとっても環境は大切だということに気づくことができた。また、夏季休業をはさんで、一人一人が調べ学習をした小動物や昆虫、植物のその後の様子について、網やかごなどの道具をもち、再度経過を見に行くことで、生き物と環境との関わりについて横断的な見方や考え方ができるようにした。そうすることで地域の環境を守ろうとする実践力を育てることにつながると考える。

### 【6年生】

3年生から、総合的な学習を中心に「身近な生き物の環境」「リサイクル活動」「学区の水質環境」など環境問題について横断的な学習を続けてきた。そのまとめとして、6年生では、理科や社会科の学習と関連させ、「地球の環境問題」の学習に取り組んでいる。

12月に環境学習センター「アスエコ」の環境学習出前講座を受けた。環境に関する専門知識を備えた講師の方から、参加体験型の学習プログラムで温暖化・自然・持続可能な社会に関するお話を聞いた。児童は楽しみながら学びを深め、人間の生活の仕方が地球環



境問題と関連があることを学んだ。この講座をきっかけとして、自分自身が普段何気なくしている行動や、生活様式にも問題意識をもつようになったと感じる。

その後、一人一人が特に関心をもった地球環境問題を選び、図書資料やインターネットを活用して情報を収集していった。その際、地球環境問題についての内容理解だけではなく、それらの解消のために自分自身ができることについて考え、発表ボードや模造紙にまとめて保護者・地域の方に発信していくこととした。そうすることで、身近なことから少しずつ取り組む実践力を高められると考える。

### 3 今後の課題（次年度への引継やより充実した内容にするために）

今年度は、それぞれの学年で、生活科・総合的な学習の年間指導計画をESDの観点から見直し、実施することができた。各学年の生活科・総合的な学習担当の教職員が中心になって、横断的・縦断的な広がりがあるように、教職員間で情報交換や共通理解を行ったり、校内外の人材バンクを活用したりするなど、活動を充実させていくことができた。

子どもたちは、「地域の人とつながる・地域の環境を守るプロジェクト」を通して、地域の「人・文化・自然」と継続的に関わることで、一人一人が考え、互いに学び、行動することを経験し、課題を自らの問題としてとらえ、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出してきた。その過程で、自分で何かを感じたり考えたりする力、グループで協力して進めていく力、話を聞いたり質問をしたりしてコミュニケーションをとる力など、いろいろな力を少しずつ育てているように思える。実際に、「地域の人と交流して喜んでもらえる」、「バリアフリーについてインタビューする」、「講師の方から新しい知識を得る」、「自分たちにもできる活動について考え、発信していく」などの体験が、その後の活動の原動力となってきた。

現時点までに行ってきた取り組みについて、教職員間で内容や情報を共有していくための組織作りが課題の一つである。また、外部の人と関わるのが子どもたちの実践意欲につながったという実態から、いろいろな人と継続的なつながりがもてるようにしていきたい。今後は、中学校区の連携はもちろん、類似の活動を行っている他校と交流の機会をもつことなども考えられる。社会とつながることが、子どもたちの実践意欲を高め、活動を通して自分の生き方について振り返ったり、よりよい生き方について考えたりすることができると思う。これが、共に「持続可能な社会」を築いていく力を育てていくことだと思う。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）